

建築人

6

2012



「弘前市庁舎」の完成から三年、今度は、前川にとって弘前における初の文化施設となる「弘前市民会館」の計画がスタートする。「東京文化会館」の竣工から半年後の一九六〇年十月のことだった。敷地は弘前城址内の崖地に面した南西端の角地で、遠くに弘前のシンボルである岩木山を望む。ここに、千三百席の客席をもつホールと、集会室や会議室、結婚式場などを含む公民館的な機能が求められた。敷地に残る既存の図書館や野球場、老松などの既存樹木や遺跡との調整もあつて、建物の配置計画は難航を極め、最終案は基本設計の期限ギリギリの十か月を費やして土壇場で決まったという。しかも、完成した建物は「見常識的な配置ではなかった。大手門をくぐつて東側からアプローチすると、手前右側にホール棟の舞台がそり立ち、来館者にお尻を向ける格好になるからだ。しかし、こうすることによって、ホール棟のロビーが奥の西側に開けた場所に取れ、敷地奥の左手に集会室や会議室などが入る付属棟を置き、その間を長さ三十六m、奥行八・四mの車寄せ棟の低い水平の庇がつなぐ構成になる。こうして、中央正面の車寄せ棟越しに岩木山を望む雄大な視界を確保しながら、左右に伸びやかな空間が広がるたたずまいが実現したのである。

それにしても、ここには、「東京文化会館」で華々しく試みられたような、大きな庇も開放的なガラス面もない。建物全体がコンクリート打放しの荒々しい簡素な素材感で統一され、彫の深いスリット状の開口部が外壁のデザインをまとめあげており、どこか内向的な印象さえ受ける。前川にどのような考え方の変化があつたのだろうか。

設計チームだった吉川清の回想（『記憶帳』一九九九年）によれば、前川は、設計にあ

たつて、ホール舞台の「閉じた壁」が「ホワイエに近づくにつれて壁の穴が大きくなつて来る感じを構造的に関係づけられないか」と問いかへ、「構造的にシステムをつくつて、このシステムが連続して全体が持つている、しかも穴はホワイエに行くにつれて大きく取れるのを建築的なデザインでまとめる」ことを求めたという。たしかに、没後に見つかった前川直筆のスケッチブックには、ホールと集会室の周囲をリブ状のリズミカルな壁柱が取り囲む平面図のスケッチが残されている。後に「ランダム・

記憶の建築 松隈 洋

弘前市民会館 1964 年
彫の深い外壁に守られた内部へ



ホール棟の南面外観 左側に車寄せ棟の庇が見える



ホール棟のエントランス・ロビーと大階段

一般ではさほど必要ではないと思われるようなことも注意しなければならない。限られた予算の中では、贅沢な保温材・仕上材を使用することはできない。そのためにも必要以上に開口部を多くするのは好ましくなく、外部は打放しコンクリートの壁を主体とし、内部からの必要に応じた開口部をとかく単調になりがちな外壁に陰影を与えて、あるリズムを作っている。」（南条二秀「弘前市民会館の設計について」『建築文化』一九六四年十月号）

とはとりもなおさず今日の人間をおびやかしている何ものかの正体を見きわめることからはじめられねばならないと思う。（中略）二十世紀の初頭に、機械は建築家たちに新しい希望を与え、その未来の空をバラ色にいろどつてみせた。だが水平線のかたに表れたと見えた救いの船もどうやらはかない幽霊船の幻にすぎなかつたようだ。機械は人間を巨大な官僚的な組織の網目にくるめ込んで、深い人間的な形とその意味をその生産物に賦与する手段を封じてしまった。

こうして物質世界とのかけ橋もはずされて、孤独な人間はひとり精神のサバクにとり残されねばならなかつたのだ。（中略）孤立した建築家の悲壮な戦いは、二にかかつて人間の環境に人間らしい形と意味とをとり戻したいという悲願に支えられているのだ。」（前川國男「現代建築の課題」『朝日新聞』一九六二年二月三日）

近代建築は「人間らしい形と意味」を取り戻すことができるのだろうか。前川は、「木村産業研究所」以来、三〇年に及ぶ弘前での実践を経て、「弘前市民会館」において、あらためて、建築に物質的な存在感を与えるために何が必要なのか、と自問したに違いない。そして、その中心には、厳しい自然から人間の営みを庇護するための、確かな厚みと素材感を持った彫の深い外壁への関心が芽生え始めていたのだろう。その試みは、この建物の設計中に提出された「東京カテドラル指名コンペ案」（一九六二年）や、続いて計画が始まった「埼玉会館」（一九六六年）を通して、さらに深められていくことになる。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工芸）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

ウォール」と名づけられたこの壁柱については、他の担当者も次のように記している。

「この建物の外壁は図面にも見られるようにコの字型、あるいはI型の壁柱とも言えるコンクリート壁を開口に应じてアトランダムに配し、これに極力水平力を受持たせ、内部に開放された空間を作っている。その凹部に開口部を設けてサッシを雨雪から保護し、内部には仕上とインシュレーションをかねてエアスペースを作る。北国の建物は保温・凍害のため、

やはり、ここには、弘前の厳しい冬の気候へ配慮したデザインが施されていたのである。しかもそこには、機能性と経済性を追求する近代建築が何を失いつつあるのか、というより深い時代に対する文明論的な洞察が含まれていたのだと思う。設計中の一九六二年に、「東京文化会館」が朝日賞を受賞した際、前川は、次のような言葉を記していた。

「建築の機能は根源的に人間生活の庇護であるとするれば、現代建築の課題を問うこ



テクノロジー Technology

子供たちに受け継がれる木の建築・高羽六甲アイランド小学校体育館

－小径断面無垢材による木造トラス構造－

椎原 毅 原田量治 植森貞友

椎原 毅

1936年 大阪府生まれ
1958年 京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科卒業。
(株)池上建築事務所勤務を経て、1968年 椎原建築事務所を開設。
1988年 (株)C・E・M椎原総合設計設立。
子どもたちが感性豊かに育つ施設を目指して、幼稚園や保育園を多数設計。

原田量治

1954年 徳島県生まれ
1978年 関西大学工学部建築学科卒業。ゼネコン技術者を経て1989年設計事務所開設。その後、大工の棟梁に師事し、伝統技術（特に木造トラス技術）を学ぶ。現代建築と伝統建築の融合を目指し、1998 年 社名を(株)合掌と改名して再出発する。
現在、混構造を含め木造トラスを中心に、施工を通して木造伝統技術を伝承すべく活動中。

植森貞友

1978年 大阪府生まれ
2003年に京都大学大学院修士課程修了後、カナタ構造設計に勤める。
2005年、家業の関西木材工業(株)に入社、2008年に事務所登録。
長寿命建築を目指し、新築は現在住宅中心に構造設計をしているが、将来的には木造伝統工法まで手がける予定。

高羽六甲アイランド小学校

【設計】
建築：C・E・M椎原総合設計（椎原毅、松田元子）
構造：校舎 安田建築事務所（安田光世）
体育館 関西木材工業（植森貞友）
設備：森田総合建築事務所
協力：空間計画（荒木公樹・奥河歩美）
【施工】
建築：コーナン建設（浦崎伊織）
木造トラス：合掌（原田量治・花谷栄）

注1）小林聖心女子学院小学校旧体育館



注2）木造トラス勉強会 <http://www.eonet.ne.jp/~truss/NewFiles/study.html>

注3）1959年日本建築学会「建築防災に関する決議」における「木造禁止」
<http://www.aij.or.jp/jpn/databox/2010/20100726-1.htm>

2012年3月、海を望める六甲アイランドの南に、高羽六甲アイランド小学校が竣工した。その体育館のアリーナは、ヒノキの小径断面無垢材で組み上げられた木造トラス構造となっている。エコマテリアルである木造が見直されてきてはいるものの、体育館のような大規模、大スパンの木造といえば集成材を用いることが一般的だが、今回のプロジェクトは稀な試みである。

木造トラスの骨組みが規律良く並ぶ様は、圧巻であると同時に素直な美しさを感じさせる。また、内壁・天井も木が用いられており、木の香りと温もりに包まれる、清々しい空間となっている。

この建築の実現に、どのような想いや試行錯誤、技術、背景があったのかを、意匠設計者の椎原毅氏、木造トラス設計・施工者の原田量治氏、構造設計者の植森貞友氏にお話を伺った。そこからこの建築の意義・魅力のみならず、今後の木造建築をめぐる展望を探りたい。

木造建築への想い

近年日本では、木を積極的に使おうという方向に動いている。地域産材を使用する建築物に対して補助金の制度を設けている地方自治体もある。この体育館を木造で計画したもの、兵庫県からの補助金が発端だが、結果としては補助金を受けることができなかった。それでも計画を変えなかったのは、教育熱心で子供たちのために木の空間を造ることの価値を理解した施主の田川智理事長、椎原氏の木を使いたいという想いからだ。

「日本は木の国。木を使うというのは我々の使命のようなものだと感じている。そして、やはり構造で使うのが本筋。この良い機会に是非実現したいと思った。」と、これまでも木造の幼稚園や保育園を手がけてきた椎原氏は語った。

また、原田氏には忘れられない木造トラスの体育館があった。小林聖心女子学院小学校旧体育館（注1）である。原田氏は保存や移築でその命をつなぐことができないかと奔走した。結果的には2006年に解体されたが、椎原氏もその姿を見ていた。以来、あのような美しい木造トラスを再現したいという共通の願いを持っていたのである。

構造体系と設計方針

この建物は、鉄骨造と木造フレームが併用されている。木造フレームの正確な剛性評価は難しいため、鉄骨と木造の水平力の負担割合も同様に評価が難しい。そのため、安全側に考慮し、木造フレームが負担する水平力は余力として扱った。つまり、木造フレームの剛性は見込まず、全ての水平力をX,Y方向とも外周部の鉄骨ラーメンフレームで負担させる鉄骨造建物として設計されている。鉄骨造部の架構案については、棟に鉄骨梁を用いた3ピンジモデル案なども検討された。しかし、最終的には木造ト

ラスを魅せることを優先させる方針から、屋根組は全て木造トラス構造のみで構成する現案が採用された。

具体的な計算の流れは、まず一貫設計プログラムで、全ての木造の柱頭柱脚をピン接合として、木造フレームの剛性を見込まないモデルで鉄骨の設計を行う。その後、求めた変位を強制変位として木造フレームに入力して木造部の応力解析を行い、許容応力度内であることを確認した。木造フレームについては長期荷重や、風圧時、地震時、保有耐力時の変形追従性などに関して検討を行っている。

原田氏の経験的勘や意匠要素から選定される形状に対し、植森氏が学会基準許容値等を用いて数値的な実証を行い、金物や接合部の形状を決定していく。例えば、ほぞ接合部は、数値上の検討でめりこみ強度が不足した為、金物を用いて接着面を増強した。

伝統木造の構造計算手法は、木組や接合部などが複雑で構造解析による解明が不十分であると言われている。今後、実験や研究を通じて、耐震性能を正しく評価できる基準が設定されることが重要な課題だ。

日本の伝統的な木造 トラス

原田氏によると、この体育館は日本の伝統的な木造トラス構造だという。一つ一つの納まり方ではなく、木の使い方が伝統的な考えに沿っているという意味だ。どの部材がどういった力を受けるのか、どこで組むのが木の性質や力の流れに合理的かを理解し、部材構成や接合部を設計することである。

自らを「木造トラス大工だ」と称したという棟梁の下で、原田氏は学び、日本の伝統的な木造トラス技術を受け継いだ。それまでに木造以外の設計や現場監督を経験してきた原田氏だったが、建築について何かすっきりとしなかったものが、木造を学ぶことで腑に落ちたそうだ。

木造は、力がかかることで初めて強くなる。相手の部材があって初めて緊張状態が生まれ強固になるのであり、部材同士に関係性がある。他の部材と無関係に成り立つ鉄筋コンクリート造や鉄骨造は、相手のいない不安のようなものがあると言う。

そういった木造の魅力から、現在も木造トラスにこだわり、その技術を継承するために、木造トラス構造の建物の設計・施工をするとともに、技術公開のための勉強会（注2）を開くなどの活動を展開している。

では、「日本の伝統的な木造トラス」とは一体何なのか。本来トラスとは、西洋発祥の技術である。それが幕末に日本へ輸入され、それまでの日本の木造伝統技術を土台にして、日本独自の木造トラス技術に昇華された。よって歴史は古くはないが、それが「日本の伝統的な木造トラス」なのである。

当時は近代化の流れにより、工場や倉庫、学校や講堂を建てる社会的要求があり、大規模空間が可能なトラスが必

要とされた時代であった。しかし戦後、昭和34年の伊勢湾台風以降の木造禁止（注3）の動きなどにより廃れ、いまやごく一部の棟梁にしかその技術は残っていない。その後、1980年代以降に、大断面集成材により大規模木造建築が建設されたが、伝統的な木造トラスとは異なるものであった。

無垢材のトラスは、現在の法基準に照らすとハードルは依然として高く、集成材も接着剤の改良により、耐水性、耐久性ともに向上しているので、集成材による架構も一つの答えではあると思う。しかし、それでは先人たちが残してくれた技術は次世代に残らない。「技術の伝承という意味でも、今回これほど大きな架構を木造トラスで構築したというのは、大きな意義があったと思う。その技術伝承のお手伝いが出来たことを嬉しく思います。」と植森氏は語っている。

本体育館と伝統木造 トラス工法

本体育館と伝統木造トラス工法の共通点をいくつか挙げてみよう。

トラス構造は基本的に軸力しかかからないが、木材は圧縮に強く、引張の方が弱い。その引張に抵抗するために、伝統工法でもタイバーや両引きボルトなど、引張に強い鋼材が使用されることがある。この体育館でも、トラスの引張材にはボルトを貫通させている。

伝統工法では、木材同士のずれ止めに、木製の車知栓やジベル金物を挟み込んで、ボルトで締め付ける接合方法がある。本体育館でも合掌材において、込栓とボルトで2本の小径断面木材を一体化させて組合掌とし、大断面とみなすことが可能になっている。これにより、2本で継手の位置をずらし、規格長さの用材で強度を確保できた。

また、各メインフレームの組柱のうち2本1組の部材は、ハの字型に内側に傾いている。これは、ころび柱と同じ考えに基づくものだ。

単純に伝統的なものをそのまま使うだけでなく、同じ考え方に沿って、新たに金物を設計・製作して使用しているものもある。先述のトラスの引張材に入れたボルトも、貫通させることは一般的ではない。

ワッシャー金物という独自の金物。これは、ボルトに垂直な広い面をなすワッシャーの役割と、車知栓やジベルのようなずれ止めの機能を同時に果たしている。

部材が複数集結する接合部には、箱金物（注4）を採用している。軸力と垂直な面を作り、滑らずに力を合理的に伝える、理にかなったものである。

また、これらの金物は、ボルト頭程度しか見えないため、簡素で美しい納まりとなっている。

一方で、この建築独自の点をひとつ。トラスの斜材をころび柱と合掌材の傾きに全て揃えつつ、節点も適切な位置に納めている点だ。引張・圧縮材の考え方は伝統工法と同じであるが、これまでにはなかった、美しい架構である。

木造 トラスの施工

住宅での木造トラスの施工経験が豊富な原田氏だったが、体育館のように大規模な物件は初めての試みだった。それにも関わらず、本工事に与えられた工期は非常に短かった。

通常は、木を手配するだけでも3ヶ月はかかるというところを、1ヶ月で集めた。長さ4m以上の材木は兵庫県産材では

集めきれず、吉野などから仕入れている。その後、材木の乾燥や養生で半月程度。地組みまでの工場での加工期間は、通常最低3ヶ月はかかるが、終盤は現場作業と並行して、1ヶ月半～2ヶ月程で納めた。現場スタート後、1ヶ月程度で木造トラスの骨組みが完成した。どの工程も厳しい日程だった。

木造トラスの組立て手順については、右に示す。
工期短縮のため、部材加工全体の3割程をプレカットで対応した。結果として、プレカット材はいくつかの利点をもたらした。まず、精度が良く、同じパーツが多数あるトラスには最適だった。次に、プレカットで加工された込栓用のしゃくり溝が、手刻みの加工をするための墨付けに代わるガイドとなったことだ。大量の材木を使用するため、全ての材木に墨付けするとすれば、膨大な時間がかかる（注5）。しかし、プレカットによって、墨付けの大幅な省力化が可能となった。この木造トラスは、伝統的な木組み工法で造られている。そのため、複雑な加工もあり、当然、プレカットだけでなく、大工による手刻み、木組みも、必須かつ重要である。
建て方の際には、6mの柱の傾きがわずかに1～2mmという精度だったという。また、ほぞ穴をメタルタッチにしたため、大屋根のトラス梁を載せた際、通常は自重で沈み込むのが、ほとんど見られなかったそうだ。

社会的意義と価値、そしてこれから

本体育館は大架構ながら、集成材でなく小径断面無垢材を使用している。長大な部材や特殊な接合、工法も採用していない。そのためこの現場は、町場の大工や小規模なプレカット会社が活躍できる場を提供した。

工期が大変短かったことは先に述べたが、それを乗り切れたのは、多くの大工が減多に無い面白い仕事ということで、休日出勤や残業も厭わずに積極的に加工に参加してくれたことが大きい。やりがいを感じられる現場だったようだ。

プレカット会社も、普段は木造戸建住宅がほとんどで、体育館など初めてのこと。自分たちが加工した材木が使われる建物に興味を持ち、自分の息子に誇らしげに現場を見せに来た人もいたという。原田氏が主催する先述の木造トラス勉強会には、以前には見られなかったプレカット業者が大勢やってくるようになったそうだ。

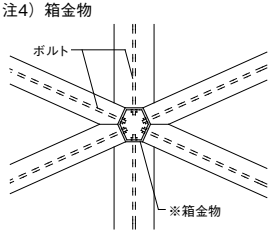
体育館のような大規模木造建築物では、多くの木材を使う（注6）。それらを国産の小径断面無垢材で、実現が容易になり広がれば、日本の林業・製材業にも活気が戻るのではないだろうか。

実は、植森氏は材木業者でもある。木をよく知ることから、原田氏からの信頼も厚い。将来的には実験などを通じて技術開発を行い、純粋な木造トラスの架構にも原田氏とともに挑戦してみたいという。このような木を熟知した構造設計者が、今後求められる。

そして、小径断面無垢材を使用する合理的な伝統工法の見直しや修得者の育成と、独自の金物やプレカット加工の採用などの柔軟な対応や考え方が、重要だと実感した。そこに、今後の大型木造建築の拡大、材木業者および加工業者、町場の大工、さらに日本の林業・製材業まで、復活・活性化の鍵があるのではないだろうか。

この体育館は、その道しるべとなりうる建築だと思う。

文責 奥河歩美／空間計画(株)・中村尚子／(株)トスオフィス



注5）同材量の墨付けは、通常大工2、3名で2～3ヶ月かかる。今回は1名＋手伝い1名により1ヶ月程度で終了。

注6）木材使用量は、150㎡の木造戸建住宅の場合、30㎡程度。本体育館では、107.2㎡（構造材74.2㎡、内装材33.0㎡）。

木造トラスの組立て手順

①各メインフレームのトラス梁の半分（棟から軒）を工場で組む。横繋ぎのための母屋・棟・桁トラスも地組みしておく。それらを現場へ運ぶ。



②グラウンドに設置した作業架台の上で、①のトラス梁を2つ1組で山型に組み、下弦材を付ける。



③2階鉄骨梁の上に、組柱を腕木まで建て、柱同士を横繋ぎする組開差を組む。壁筋交いと①で地組みした桁トラスを納める。

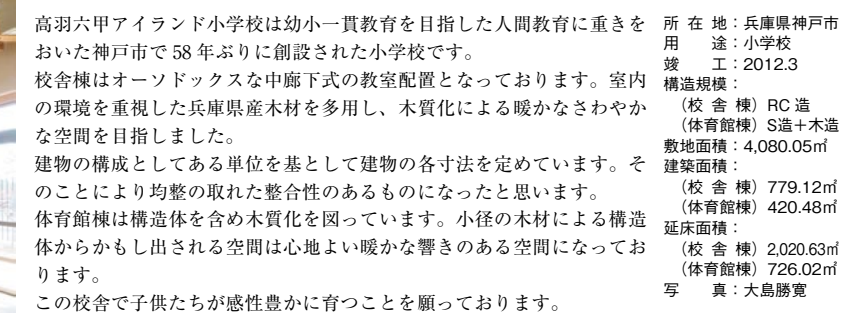
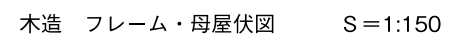


④集積用架台に仮置きした②のトラスをクレーンで吊り上げ、桁に納める。



⑤メイン・サブフレームに①の桁行き方向の母屋・棟トラスを渡し組み込み、小屋筋交いを入れて骨組み完成。

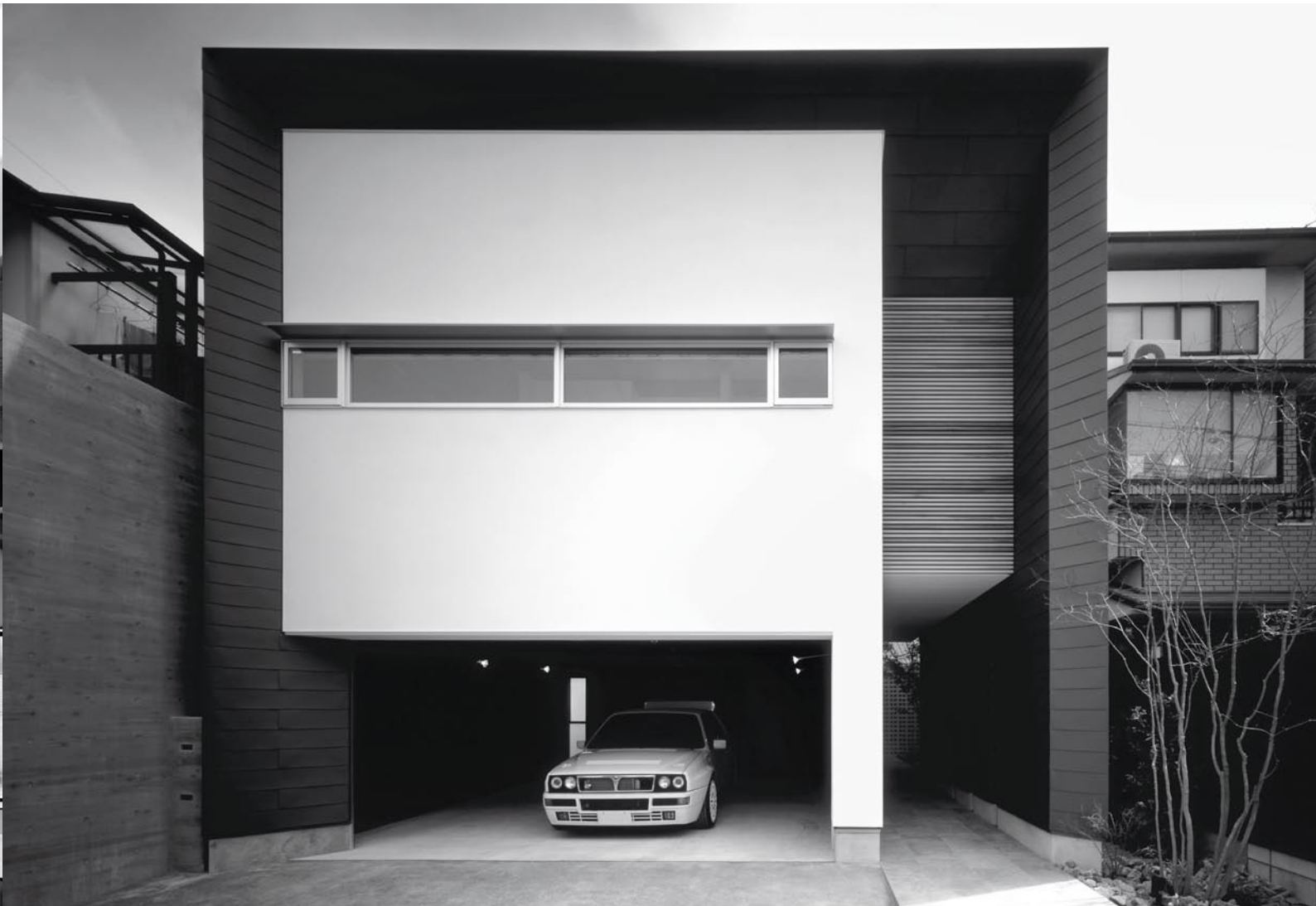






岩倉地区はいまから35年ほど前から開発された住宅地域であり、地下鉄の開通によりさらに交通至便の地になった。この家は国際会館駅からそれほど遠くない閑静な住宅地にある、比較的大きな和風住宅である。外観は風致地区の規制に対する模範的な回答のような形態になっているが、内部は大きな吹き抜けのあるリビングや、アイランドキッチンのあるダイニング、そしてオープンな階段、といった我が国の現代生活における標準的なスタイルに対するしつらえを有している。また、当地の冬期の気温は相当下がることもあり、薪ストーブの設置や、取り外しのできる障子を天井面に設けること等により、今年の厳冬期も快適に過ごせたとのことである。

所在地：京都市左京区
用途：専用住宅
竣工：2010.8
構造規模：木造
敷地面積：668.42㎡
建築面積：151.15㎡
延床面積：206.49㎡
写真：大島勝寛



古い家屋が狭い道路に面して建て込んでいる街並みが、新しい住宅の道路からセットバックした庭や駐車場のオープンスペースにより、少しずつ変わりつつあります。そのような街に一層のゆとりを与えたいと考えました。圧迫感を和らげるため、建物を大小二つのボリュームに分け、背の低いボリュームを道路側に配置し、背の高い方を中庭を挟んだ敷地の奥に配置しました。道路面から奥まで伸びるアプローチ空間が、中庭の緑の景と道路とを繋いでいます。新たな住人が、街と繋がり、街に潤いを与え、豊かな生活を送る。そのような想いが、建物全体の在り方から手に触れる部分までをこだわりました。

所在地：大阪市住吉区
用途：専用住宅
竣工：2012.4
構造規模：木造3階建て
敷地面積：156.85㎡
建築面積：77.10㎡
延床面積：167.00㎡
写真：富田英次

第 58 回大阪建築コンクール入賞発表

主催 (社)大阪府建築士会 後援 大阪府・(財)大阪 21 世紀協会・(社)大阪府建築士事務所協会

◆趣旨 建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大であります。
大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会の会員を表彰します。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものであります。

◆対象 2009 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日の間に竣工した建築物

◆審査委員長 小玉祐一郎
神戸芸術工科大学 教授

◆審査委員 ※50音順

芦澤 竜一 芦澤竜一建築設計事務所 主宰	内海 慎介 株式会社 大阪本店設計部	忽那 裕樹 株式会社 DESIGN 代表取締役	布野 修司 滋賀県立大学 教授
満田 衛資 満田衛資構造計画研究所 代表	南 正晴 前大阪府住宅まちづくり部公共建築室長、 現日本住宅パネル工業協同組合 技術顧問		

◆審査総評

このコンクールは今年で 58 回目を迎えた。これまでの受賞作品や受賞者のリストを見ると、その歴史の長さや重さを感じる。大阪の建築の魅力は東京とは違った一種独特のものがあると日ごろ感じ、それはおそらく関西の持つ歴史の長さ、建築の文化、住の文化の成熟度によるものであろうと漠然と考えている私自身にとって、最近の力作をじっくり見る良い機会となった。

もうひとつの関心は、東日本大震災の影響である。大災害は、その時の社会が抱えている構造的な問題を顕在化させる一と言われるが、人口減少、少子高齢化、低成長経済、コミュニティの変貌、地球環境やエネルギーの問題、さらには民主主義のあり方など、その問題の所在が見えてはつきりしてきたようだ。原子力問題を取り上げるまでもなく、これらの問題解決には多くの選択肢があり、合理的で明確な処方箋があるわけでもない。しかし、何かが変わるという予感はいく多の人が共有するようになったのではないかと。もちろん、それが都市や建築に表れるまでのタイムラグはあるにしても、兆しは見えてきたかということだ。

今回の応募規定では、授賞は、大阪府知事賞の 2 部門、渡辺節賞部門の 3 部門に対して行い、大阪府知事賞は、住宅を主としたものを除き、延床面積が 3,000㎡未満の第 1 部と、3,000㎡以上の第 2 部の 2 部門とされている。総応募数は 33 点で、第 1 次審査会ではその中から、知事賞部門第 1 部で 4 点、第 2 部で 3 点、渡辺節賞部門で 3 点の計 10 点が選出された。第 2 次審査会では全員で現地審査を行い、その後、最終審査を行うという段取りである。大阪府建築士会主催とはいえ、審査対象は京都から明石、田辺までの広い範囲に位置する。このコンクールの広がりやの大きさを若干の疲労感とともに感じた 2 日間の現地審査であった。最終審査は、それぞれの部門ごとに、第 1 に推すもの、第 2 に推すものの 2 点の投票を行うことから始まった。その結果を見ながら、委員のそれぞれが推薦理由を含むコメントを述べ、討論を行うという手順である。白熱した議論もあったことを特記しておきたい。

大阪府知事賞部門第 1 部では、「児童養護施設 三ヶ山学園」が 7 人の審査員のうち 6 人が最優秀作品として評価した。不整形な敷地の外周に沿うように、1 階にパブリックな、2,3 階にプライベートな室群を配置し、それらに囲まれるように、リビングと名付けられた 3 階分の吹き抜け空間がある。とかく殺風景になりがちな大きな吹き抜け空間に変化を与えているのは、外周および屋根面に巧みに設けられた外部との接点である。外部から引き込まれた中庭、屋根から宙づりにされた 2 階レベルのルーフガーデン、天窗などから、さまざまな質の光、緑、そして自然の風が取り込まれている。養護施設にきわめて開放的な「家」を仕組んだデザインが評価された。RC 壁構造に外断熱を施し、ダイナミックな空間構成ながら、安定した熱環境を維持している点も見逃せない。一方で、この大空間がリビングとして有効に使われているのだろうかという意見もあったことを付記しておく。この部門では、「えいの里保育園」の開放的な木造空間、「紀陽銀行田辺支店」の材料の使い方、「キャナルテラス堀江東棟・西棟」の地域への貢献を評価する意見があった。

大阪府知事賞部門第 2 部では、「龍谷大学 龍谷ミュージアム」と「塩野義製薬医薬研究センター SPRC4」という、いろいろな意味で対照的な 2 つの建築に票が集中し、結果として双方が受賞することとなった。前者は、オーソドックスではあるが重厚なデザインで、高い完成度を感じさせる材料の扱い、ディテールの巧みさが評価された。京都の中心部にあるゆえ、景観条例上の要請・規制や周辺の歴史的空間との関係をどのようにデザインに昇華させるかが一つのポイントになる。堀川通に面する「流れ」をモチーフにした西側ファサードや表通りと裏通りを結び建物を東西に貫く路地空間など、外部空間の内部空間との融合にみられる意匠と機能の複合は、総じて昇華の有効な解法と評価された。洗練された空間は認めつつ、新規性の評価に委員間の温度差があった。後者は、「知的生産性」の向上が命題とされる研究施設であり、それに果敢に挑戦したデザインが評価された。その第一は、研究室と実験室、コミュニケーションスペースを有機的に関係づけた内部の空間構成である。高い天井高さを必要とする実験施設と研究スペースを同じフロアにおくという要請に応えながら、その高さを生かして開放的な研究執務空間を実現し、また、上下階を大きな面積を持つスキップフロアでつないで、活発なコミュニケーションを意図した「ガレリア」を建物中央に設けている。東と西の外周には連絡通路や休憩スペースを含む外部との緩衝空間が配置されている。複雑な機能が複合されたファサードは未消化との評価もあった。供用開始から日が浅いこともあってか、使う側の戸惑いが感じられたが、先進的な試みゆえの現象であろう。

渡辺節賞部門では、「D アパートメント (CASA 小治郎)」、「神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール」、「目神山のいえ」で票が割れた。これらもそれぞれ対照的なデザインである。都市計画道路にまたがる敷地に立つ「D アパートメント (CASA 小治郎)」は駅前の雑踏の中にあるが、幸い南東側はオーナーの敷地や川があり、オープンペースが残されている。その外部空間と室内空間を、中庭を介しながら縦横自在につないでゆく構成が斬新だ。それゆえ、各住戸は外部との接点を多く持ち、部屋の奥行きは 2m ほどと狭いものの、意外な広さを感じさせる開放感がある。鉄骨造でありがちな上下左右の遮音の課題にきめ細やかな配慮がされている反面、中庭や屋上の扱いに配慮が足りないとの意見もあったが、荒削りではあるがコンセプトを具体化する空間構成手法は新しい力を感じさせる。「神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール」は、講堂を兼ねた小規模な体育館である。書類審査では、軽快な木架構屋根が印象的であったが、現地ではむしろ、周辺の自然や既存キャンパスの環境を読み込んだ手強いプランニングとディテールが魅力的で、若手を支える設計組織の力も感じさせられた。「目神山のいえ」は、石井修以来のこの地の住宅地の特徴を踏まえたデザインの熟成を感じさせた。結局、もっとも意欲的で実験的な試みをしている「D アパートメント (CASA 小治郎)」がこの賞にふさわしいと評価され、ついで「神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール」が奨励賞ということになった。

冒頭で述べたように、関西の建築力にあらためて触れる一方でその多様化への胎動も感じ、さらに、エネルギーや環境へのデザイン配慮が確実に定着しつつあることも認識した審査経験であった。



審査委員長 小玉祐一郎

大阪府知事賞部門(第1部)
児童養護施設 三ヶ山学園 設計者 野村 充
(野村充建築設計事務所)



建築位置／大阪府貝塚市東山 2-1-1
建物用途／社会福祉施設
建 築 主／社会福祉法人 三ヶ山学園
施 工 者／東亜建設工業株式会社
竣工年月／2010 年 9 月
撮 影／ナトリ光房 名執一雄

〈講評〉
児童養護施設を「大きな家」として、子供達のコミュニケーションが醸成される工夫がなされている。建築中央に大きなコモンスペースを配し、周囲に動線と居室群を展開する構成。プライベートとパブリックが空間として組み合わせられ、生活の中で安全地帯と創意工夫で使いこなす多様な場所が提供されている。屋外や空を切り取った風景もリビングに組み込まれ、建築ファサードとともに子供達の期待感を高め、その笑顔を支える場所となっている。(忽那審査委員)

大阪府知事賞部門(第2部)
塩野義製薬 医薬研究センター SPRC4 設計者 小幡剛也(株式会社竹中工務店)



建築位置／大阪府豊中市二葉町 3-1-1
建物用途／研究所
建 築 主／塩野義製薬株式会社
施 工 者／株式会社竹中工務店
竣工年月／2011 年 7 月
撮 影／平井広行

〈講評〉
まさにマシンのような建築である。厳重な管理が必要な実験施設も併設されているから、まるで工場のようなでもある。巨大建築ではあるけれど、細部にも目配りがされており、日本の最先端の研究施設としての水準を示している。巨大な吹き抜け空間の中に、フリーアクセスの研究ブースが並んでいる。R. ロジャースのロイズを思い起こしたが、気持ちよさそうである。ただ、しわぶきひとつしなないのはいささか不気味であった。(布野審査委員)

渡辺節賞部門 奨励賞
神戸国際中学校・高等学校 河野記念 アルモニホール 設計者 中西正佳(株式会社竹中工務店)



建築位置／兵庫県神戸市須磨区高倉台 7-21-1
建物用途／学校 体育館
建 築 主／学校法人 睦学園
施 工 者／株式会社竹中工務店
竣工年月／2011 年 5 月
撮 影／稲住写真工房 稲住康広

〈講評〉
大断面集成材利用の体育館となるととかく構造技術が前面に出がちだが、北面の列柱や庇からはむしろ日本古来の建築に通じる荘厳さや優美さを感じる。聞けば多くの寺社建築を研究したという。要素の少なさに加え屋根を大胆に浮かすなど大味な印象も残る一方で、緑豊かな北側の斜面にあてた柔らかな光を取り込む構成は木の列柱と相まって森の中にいるような心地よさを与えてくれた。建築美に対する探究心、多様な技術をまとめ上げる力、利用者への愛情。それらバランスのよさに作者の今後に期待が膨らむ。(満田審査委員)

大阪府知事賞部門(第2部)
龍谷大学 龍谷ミュージアム 設計者 赤木 隆
(株式会社日建設計)



建築位置／京都府京都市下京区西中
筋通正面下る丸屋町 117
建物用途／博物館
建 築 主／学校法人 龍谷大学
施 工 者／株式会社浅沼組
竣工年月／2010 年 7 月
撮 影／東出清彦

〈講評〉
①場所性(西本願寺や堀川通、油小路側の街並)に対する形態や色彩の配慮。②通り抜けアプローチとサンクンガーデン、エントランスホールを一体的に構成し立体的な露地と見立てた経路空間の魅力。③各所の素材やディテールデザインの密度やプロポーションから感じられる工芸的な雰囲気。—これらの工夫によって、宗教性や地域性と冷静に真摯に向き合うことで京都らしい、現代的な建築が高い完成度で実現されている。(内海審査委員)

渡辺節賞部門 渡辺節賞
Dアパートメント(CASA小治郎) 設計者 香川貴範+岸上純子
(SPACESPACE)



建築位置／大阪府門真市
建物用途／共同住宅+事務所
建 築 主／鈴木昭弘
施 工 者／パナホーム株式会社
竣工年月／2011 年 12 月
撮 影／鳥村綱一

〈講評〉
間取り、階段室など通常動かしがたい集合住宅のヴォキャブラリーに新たな可能性を見出した挑戦作である。敷地形状に沿わせて決定した中庭を囲う口の字型の形態の中に、歪んだ階段が上部へと延びていく。2 m という狭小間口のくねった住戸を住人がどのように住みこなし、谷間のような中庭のヴォイドスペースがこの集合住宅にいかなるメリットをもたらすのか、とても楽しみである。(芦澤審査委員)

第 58 回大阪建築コンクール
受賞者講演会&ディスカッションのお知らせ
日時 6 月 7 日(木) 18 : 00 ~ 20 : 00 (受付 17 : 30 ~)
会場 ハービス OSAKA 4 階 イベントルーム



INFORMATION

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

平成24年度 建築士定期講習

7/11・8/9

CPD各6単位〔統括〕

建築士事務所に所属の一般・二級・木造建築士で、平成 21 年度に建築士定期講習を受講した方、及び平成 21 年度以前に建築士試験に合格した建築士の方で建築士定期講習をまだ受講していない方は、平成 24 年度中に当該建築士定期講習を受講することが必要です。

■講習日および講習会場

日程 7月11日(水)、8月9日(木)
時間 9:30～17:30(受付は9時より)
会場 大阪国際会議場
大阪市北区中之島5-3-51
定員 各600名

■受講申込締切

7月11日開催分:6月27日(水)
8月 9日開催分:7月 9日(月)
それぞれ消印分まで
(大阪での申込受付は郵送のみ)
簡易書留郵便でご送付ください。
定員に達し次第、受付を終了
受講料 12,900円(消費税含)

■受講申込先・申込書配布場所

大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局
申込期日まで、営業時間内に随時配布(無料)。
定員になり次第配布も終了。
※申込書はホームページからでもダウンロードできます。
詳細 <http://www.aba-osakafu.or.jp/pdf/20110405.pdf>

景観セミナー(堺市)

6/13 CPD2単位

堺市では、平成 23 年 12 月 1 日から景観法に基づく堺市景観計画と堺市景観条例を施行し、建築物の新築等にあたり、学識経験者による景観アドバイザー会議や大規模建築物等の届出と建築確認申請が連携した独自の手続きを行っています。また、景観計画の景観形成基準に適合しないため、手続きに時間を要する事例も発生しています。このようなことから、今回、建築設計者等を対象に、手続きの流れなどを解説するとともに、色彩やデザイン、景観専門の藤本英子氏をお招きして、景観に配慮した建築デザインの考え方(特に色彩)についてご講演をいただきます。主催 大阪府建築士会
大阪府建築士事務所協会
協賛 堺市
日時 6月13日(水)14:00～16:00
場所 ウェスティ(西文化会館)7階
堺市西区鳳東町6-600
定員 90名(申込先着順)
受講料 1,000円(資料代等、当日徴収)

建築士の会北摂設立10周年企画

「関西学院大学・神戸女学院のヴォーリス建築見学会」および活動報告会
6/16 CPD4単位

「建築士の会北摂」設立 10 周年を記念しまして、西宮市に広がるヴォーリスの大学キャンパスを山形先生のご案内で見学します。関西学院大学では、ランパス記念礼拝堂、旧宣教師二番館、時計台、神学部礼拝堂等をも、また神戸女学院では、総務館、講堂、ソーチチャペル、図書館本館等を見学する予定です。見学会終了後、活動報告会、懇親会も開催予定です。

日時 6月16日(土)
関西学院大学見学 13:00～14:30
神戸女学院見学 15:00～17:00
活動報告会 17:30～18:00
懇親会(希望者のみ)18:00～19:30

集合 関西学院大学ランパス記念礼拝堂
(12:30受付開始)
案内 山形政昭(大阪芸術大学教授)
定員 40名(地域優先ですが、地域外の方もOK)
参加費 会員1,500円 会員外2,000円
※懇親会参加者のみ別途3,500円程度必要
※申込者には、1週間前に参加証(地図等詳細)をfaxで送ります。

建築士のためのお茶会勉強会

6/20・26

建築士の礼儀作法のひとつとして、お茶の作法を学ぶため毎月開催している勉強会です。
日時 6月20日、26日
18:30～20:30頃まで
(原則毎月第3水曜日及び第4火曜日)
場所 よみうり天満橋文化センター
費用 年会費6,000円+1回2,500円
(年会費はキャンセル時の水屋料などのため。但し途中入会の場合の年会費は年度末までの月数× 500 円となります。)
先生 藤井宗照(そうき)先生
問合 本会事務局

第58回大阪建築コンクール 受賞者講演&ディスカッション

6/7 CPD2単位〔統括〕

大阪建築コンクールは、建築士と社会との関わりを通じて建築作品を評価し、そのすぐれた実績をたたえ、建築作品の設計者である本会会員を表彰するものです。第 58 回を迎えた今回、受賞者による講演会を企画いたしました。受賞作品のお話はもちろん、建築に対するそれぞれの思いを語っていただきます。また、審査委員とのトークセッションも予定しております。パネル等の展示も行いますので、ぜひ足を運ぶください。
日時 6月7日(木)18:00～20:00
(受付17:30～)
会場 ハービスOSAKA 4階イベントルーム
出演者 野村充(知事賞)、赤木隆(知事賞)、小幡剛也(知事賞)、香川貴範(渡辺

節賞)、中西正佳(奨励賞)

定員 50名(会員・会員外・学生
どなたでも参加できます)

参加費 無料

ゴルフクラブコンペのご案内

日時 6月23日(土)
集合 8:00 スタート8:28
会場 レイクフォレスト
参加費 16,000円程度
(プレー費、会食費等含む)
募集 6組
申込 本会ゴルフクラブ

建築士の会 東大阪 (仮称)東大阪市営高井田2期住宅見学会及び活動報告会

6/23 CPD3単位

東大阪市に在住又は在勤の会員の方を対象に活動している「建築士の会東大阪」では、東大阪市が建設し、先日竣工した仮称東大阪市営高井田 2 期住宅の見学会を、東大阪市のご協力により、開催致します。
高井田 2 期住宅は、大阪市営地下鉄「高井田駅」または、JR 西日本「高井田中央駅」から徒歩 5 分圏内に位置し、極めて利便性の高い場所に立地しています。
公共住宅を見学する絶好の機会ですので、是非ご参加下さいませ。ご案内致します。
見学会、「建築士の会東大阪」の活動報告会を行ないますが、見学会では地域以外の会員の参加も大歓迎です。報告会終了後は懇親会も企画しています。皆さん是非ご参加ください。
日程 6月23日(土)
集合 13:30～
見学 13:40～
活動報告会 14:30～(市営住宅集会所)
懇親会 17:00～
集合場所 地下鉄中央線 高井田駅(改札口)
募集 50名(申し込み先着順)
参加費 1,000円(資料、飲物代含む)
※懇親会参加は別途4,000円程度
※懇親会参加の有無を明記のこと！
※参加証は実施1週間前に出状します。

福祉住環境コーディネーター2級 受験対策講座(模擬試験)

6/24 CPD4単位

7月8日(日)に実施予定の第 28 回検定試験に向けて、2 級受験対策講座(模擬試験)を実施します。
日時 6月24日(日) 13:00～17:00
場所 大阪府建築士会内会議室
内容 模擬試験+解説
定員 30名
受講料 会員3,500円、非会員5,000円

二級建築士 受験対策講習会

設計製図実力養成講座 7/8～8/25
設計製図模擬テストⅠ、Ⅱ 8/26、9/2

設計製図実力養成講座

(全11回、模擬テスト2回含む)

日程 7月8日(日)、7月15日(日)、
7月21日(土)、7月22日(日)、
7月29日(日)、8月4日(土)、
8月5日(日)、8月19日(日)、
8月25日(土)、8月26日(日)、
9月2日(日)
時間 日曜 9:30～16:30
土曜 13:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員・準会員 115,000円
一般125,000円

設計製図模擬テストⅠ、Ⅱ

日程 Ⅰ:8月26日(日)、Ⅱ:9月2日(日)
時間 9:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館
定員 各回25名(申込先着順)
受講料 各回とも建築士会会員(準会員) 13,000円 一般15,000円
問合 本会事務局
申込・詳細 <http://www.aba-osakafu.or.jp/examination/index2.html>

一級建築士 受験対策講習会

設計製図 課題解説+エスキースコース 8/26
設計製図 模擬テストⅠ～Ⅲ 9/22、9/29、10/6

設計製図 課題解説+エスキースコース

日程 8月26日(日)
時間 9:00～12:00 課題解説
13:00～17:00 エスキース
会場 大阪府建築健保会館
定員 40名(申込先着順)
受講料 会員10,000円、一般12,000円
設計製図 模擬テストⅠ～Ⅲ
日程 Ⅰ:9月22日(土)、Ⅱ:9月29日(土)、
Ⅲ:10月6日(土)
時間 9:00～15:30(製図実習)
16:30～18:30(図面講評)
会場 大阪府建築健保会館
定員 各回40名(申込先着順)
受講料 各回とも会員・準会員 12,000円
一般15,000円

※複数コースセット受講の場合、割引があります。
詳細は本会HP申込ページでご確認下さい。
問合 本会事務局
詳細 <http://www.aba-osakafu.or.jp/examination/index.html>

第8回海外研修旅行

「南イタリア～地中海文化と世界遺産都市を巡る」
11/1～11/9

今年はアジアからヨーロッパに研修の場を移します。イタリアの南部の特徴的な各都市を巡ります。
日程 11月1日深夜発～11月9日帰り

予告：7月号より、INFORMATIONの内容を本会ホームページにも同時掲載を開始します。それに伴って本会の催し参加申込も本会ホームページでおこなえるシステムを稼働させる予定です。詳細は次号にて改めて告知致します。（建築情報委員会）

(6泊9日)

行先 ナポリ・ボンベイ・ボジターノ・アマ
ルフィ・レッチェ・アルベロペッロ・
マテラ・ローマ等

参加費 10人以上の場合 300,000円
20人以上の場合 240,000円
(全食事・専用バス代・日本からの添乗員・現地ガイド代は含みます。飛行機はエミレーツ航空使用予定。別途燃油サーチャージ・空港諸費用 54,000円余必要)

最少催行人員 10名
締切 8月31日(但し場合により早めに締切る可能性あり)

申込 事務局に申込書とパスポートコピーをお送り下さい。

詳細は別紙パンフレット(申込書付)をご覧ください。

本会の催し参加申込方法

FAX・メール・郵送で、催し名、参加者名、会員 No、勤務先、参加証送付先住所、同電話 &FAX 番号(自宅又は勤務先)を明記の上、事務局までお送り下さい。

問合・申込

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Others

その他のお知らせ

Administration

行政からのお知らせ

耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針講習会(大阪開催)

「2011 年改訂版耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説」および「既存鉄骨造建築物の耐震改修施工マニュアル〈改訂版〉」をテキストに講習会を開催します。
日時 6月29日(金) 14:30～16:15
会場 大阪市立中央区民センター
大阪市中央区久太郎町1-2-27
内容 ・特定建設作業の届出等の留意点について
・建築物の解体等作業のアスベスト対策について
・CASBEE大阪みらい(大阪市建築物総合環境評価制度)について
受講料 20,000円 (テキスト代別・税込)
申込期限 開催1週間前。但し、定員に達し次第締切
問合・申込 一般財団法人日本建築防災協会
Tel.03-5512-6451

生涯学習文化講座「近代建築探訪」

取り壊された建築、大切に保存された建築を、スライドで見ながら、建築の素晴らしさを鑑賞します。

日時 6月12日(火) 13:30～
内容 幻燈で見る「懐かしい堺の明治建築」
日時 6月26日(火) 13:30～
内容 ドッコイ生きている楽しい駅舎建築
講師 柴田正己(明治建築研究会代表)
会場 葉業年金会館 大阪市中央区谷町6-5-4
問合 総合企画澤標(みおつくし)
Tel.06-6944-0869

木造トラス勉強会

「つよい木造住宅のつくりかた」
ソーバイフォーの基準から軸組を考える

木造トラス研究所では、「伝統工法」と「木造トラス」の勉強会を開催しています。6 月の勉強会では、西宮市の職員として木造住宅を対象に設計現場審査に携われた西原誠助氏をお招きします。在来軸組工法と 2 × 4 工法の双方を比較しながら「つよい木造住宅」を実現する知恵をお伝えします。主催 木造トラス研究所(株)合掌
<http://www.eonet.ne.jp/truss/NewFiles/study.html>
日時 6月9日(土) 13:00～17:30
セミナー終了後会場にて親睦会
会場 西宮市勤労会館4階第7会議室
西宮市松原町2-37
http://kinro.nishi.or.jp/kinro_front/route.html
参加費 1,800円
(木造トラス研究所会員は1500円)
親睦会参加費 1,200円
定員20名になり次第締め切ります。
申込・問合 (株)合掌 原田量治
Tel・Fax.0742-36-2929
E-mail truss@hera.eonet.ne.jp

旧村山家住宅 両館(洋館・和館)見学会

日時 7月7日(土) 13:00～16:30
講師 坂本勝比古(神戸芸術工科大学名誉教授)
参加費 一般3,000円
定員 30名(先着順)
問合・申込 (社)日本建築協会
Tel.06-6946-6981
E-mail:jigyoka@aaaj.or.jp
<http://www.aaaj.or.jp>

「JSSC低層一方向ラーメン・他方向ブレースシステム(平屋建て)設計仕様書・同解説」講習会(大阪開催)

主催 一般財団法人日本建築センター
(社)日本鋼構造協会
日時 7月20日(金) 14:00～16:45
会場 マイドームおおさか 会議室
大阪市中央区本町橋2-5
定員 80名
受講料 7,000円(テキスト代別)
テキスト 4,200円
「JSSC低層一方向ラーメン・他方向ブレースシステム(平屋建て)設計仕様書・同解説」
問合 一般財団法人日本建築センター
Tel.03-5283-0477
<http://www.bcj.or.jp/>

報告会&シンポジウム
ストック再生活用のための手法
一用途変更の課題を解決するー

主催 (社)日本建築学会近畿支部 同支部建築経済部会
日時 7月27日(金) 18:00～20:30
会場 大阪市大文化交流センター大ホール
大阪市北区梅田1-2
大阪駅前第2ビル6階
定員 120名(申込先着順)
参加費 大阪士会会員2,000円(要会員証提示)
問合・申込 (社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
<http://kinki.aij.or.jp/>

大阪歴史博物館

講演会「建築とタイル・煉瓦の魅力」

今年、「タイル」名称統一 90 周年を迎えたことを記念し、建築家によるタイル・煉瓦を用いた優れた建築作品の紹介や、タイルの歴史をひもとく講演会を開催します。主催 大阪歴史博物館、(社)全国タイル業協会近畿支部、大阪タイル協同組合、(社)大阪陶業協会
日時 6月30日(土) 13:00～16:00
(受付開始12:30)
会場 大阪歴史博物館4階講堂
講演 西村清是(横浦辺設計代表取締役)
江副敏史(横日建設執行役員
設計担当プリンシパル)
酒井一光(大阪歴史博物館学芸員)
定員 150名(当日先着順)
参加費 500円
問合 大阪歴史博物館
Tel.06-6946-5728

京都国立近代美術館

井田照一の版画

会期 開催中～6月24日(日)
開催時間 9:30～17:00(金曜20時まで)
(入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日
観覧料 一般850円
会場 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
問合 京都国立近代美術館
Tel.075-761-4111
<http://www.momak.go.jp>

『建築人』編集部からいつもご愛読ありがとうございます。『建築人』編集部では、読者からのご意見、ご感想をお待ちしています。
*ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承下さい。
*お寄せいただいたご意見・ご感想の著作権は『建築人』へ帰属し、『建築人』に転載させていただく場合がございます。
*ご記入いただいた個人情報、返信・連絡などの目的以外に使用したり本人の同意なしに個人が特定できる形で公表することはありません。
*ご意見・ご感想は下記まで
大阪府建築士会事務局
〒 540-0012 大阪市中央区谷町 3-1-17
FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
おことわり
今月号より、季刊号以外の一般号は左綴じ・左開きの誌面デザインに変更致しました。より良い誌面構成のため、鋭意努力していきますので、何卒よろしくお願い致します。

広がってゆく、スマートハウス。 そこに、大阪ガスの「ダブル発電」。

家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」。

昼も夜も雨の日も、24時間、365日発電でき、自宅で使う電気の

約80%*をまかなえる「ダブル発電」が、

家を、暮らしを、どんどんスマートにしてゆきます。



ガスで実現するスマートハウス が、スマート!

*大阪ガス調べ

お問い合わせ先：大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部 都市開発チーム 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL：06-6586-3241 FAX：06-6586-3259 ホームページ：http://www.osakagas.co.jp

理事会報告

文責 本会事務局

日時＝四月十九日(水)十六時～十七時三十分
場所＝本会議室

出席＝理事五〇名(委任九名含)、監事二名
名誉会長、顧問、相談役他七名

(1) 二十三年度決算

正味財産合計が五三七二六七二円で債務超過に陥る直前で厳しい状況である。その要因は、退職手当引当金不足が占める割合が大きく、順当に積立が行われていないことによる。収益増の方策が急務となる。

(2) 運営方針と組織体制

新会長から、基本方針である「社会から必須とされる建築士会を目指す」を活動主張として掲げる旨を周知した。

(3) 公職派遣

公職派遣あるいは推薦について、当該会員の選定方法基準について整理して、活動報告の提出及び新規に対応するために派遣業務の志望調査も行う。

(4) 監事による監査報告

会員数減少に伴う会費収入減、事業収益の減収、退職手当引当金積立の計画の執行難などを指摘して、今後の活動の活性化をもとに財政の健全化を提議した。

(5) 個人表彰

憲法記念日大阪府知事表彰(建設関係)に、井上まるみ氏、徳岡浩一氏の受章内示を報告した。日本建築士会連合会会長表彰に、大附彦氏、岩田純氏、辻井光憲氏、田中克之氏を推薦することを承認した。

(6) 建築CPD情報提供制度

大阪府では平成二五年度から公募型プロポーザル方式において建築CPD情報提供制度による実績を評価対象とすることが決定されている。同様に建築士会CPD制度の活用、同実績証明書を評価対象として認定していただくことを依頼中であることを報告した。

建築相談

建築相談活動の新たな活路を目指して

建築相談分科会委員 兵藤幸治

建築相談ハンドブックは一般消費者からの建築相談を円滑に進めるために、住まいのハンドブック「マイホーム・建て方、買い方」と題して、二〇〇〇年に初版を発行しています。その後、建築相談に於いて、トラブルが起つてしまつてからでは対応が難しい実態を踏まえ、消費者と建築士とのコミュニケーション強化を図ることによって、事前の策が考えられるような啓発ツールが必要との思いから、サブタイトルを「建てた後で泣きを見ないために」と題して、二〇〇六年に改訂しています。その後、総合住宅展示場のセンターハウスでの建築相談に於いて、初めてマイホームを建てる・買うという消費者の戸惑いを肌で感じ、「よい家が欲しい、よい家に変えたい。」という消費者の思いと、それに応えたいと思う建築士の思いに深い狭間を強く感じ、新たな課題と捉え、その解決に寄与できる建築相談ハンドブックのあり様に取り組むこととしました。「消費者の住まいへの思いは、どんなところにあるのだろうか。」そんな時に、間取りの実例を前面に出した雑誌に人気があることに気付き、消費者と円滑なコミュニケーションを図る切り口は、間取りの実例を示すことだと思ひ立ちました。幸いにも大阪府建築士会には、「住宅を設計する仲間達」という設計をすることが得意な建築士のグループが存在します。協力依頼の声かけをしましたら、二〇名の方が、ボランティアで間取り情報提供の協力をしていただき、タイトルを「ときめく家づくりの素」として発行するに至りました。これで消費者とのコミュニケーションの糸口づくりが容易になれば、建築士の提言にも耳を傾

けてもらえ、消費者と建築士が一緒になって住まいづくり・住まい選びが進められるとの期待が膨らんでくるのです。

現在、展示場のセンターハウスに相談に来られる消費者の多くは、何から考えて良いかわからないで、虫食いの情報収集に明け暮れている気がします。それでも良いのですが、ともすれば、迷路にはまり込んだような戸惑いを隠せなくなっていると思います。間取り実例でコミュニケーションの切り口を掴んだ後に、今一度、住まいづくり・住まい選びの全貌を見据え、必要とする基礎知識は何なのか、自分でできることは何なのか等を理解してもらいたいとの思いがあり、Q&A形式で、考え方の整理を促す構成を考えました。これらの情報を基に、思考整理の結果として、住まいは買うものではなく、つくり込んでゆくものであることを、消費者に理解してもらえれば、消費者と建築士との共同作業も、円滑に進められるのではないかと思います。

原稿を詰めてゆく過程で、間取り資料のレベルで判断することが難しく、設計者の確認を要することもありましたが、この確認を行う行為自体が、結果としてコミュニケーションを活性化するために、有効な情報交流になる事を感じています。消費者とのやり取りの中でも、このような情報交流が潤滑油として働き、ハンドブックが幅広く利用され、消費者と建築士とのコミュニケーションを強化し、絆づくりにお役にたてることを期待しているのです。



大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野高尚

大阪駅の西側に残る大阪中央郵便局は、昭和一四年(一九三九年)に竣工した。設計は当時の通信省管轄課の吉田鉄郎氏で、通信建築の代表作品のひとつとしてあげられる。通信・郵政建築は公共建築にありがちな権威主義的なところはなく、機能的・合理的であることを求めてきた伝統がある。この大阪中央郵便局も都市景観の安定と秩序をもたらす重要な役割を果たしてきた。郵政事業は時代と共に変化を遂げ、平成一九年に民営化。その後、保有不動産の最適化を優先し、保存要望が強かった東京中央郵便局は、部分保存という形で再開発が決定し着工。この大阪中央郵便局については、今後の用地計画も定まらない状態で解体に着手している。

梅田周辺の再開発が駆け足で進む中、唯一残る天空との関係性。この余白の意味をイメージすることが我々に求められていることではなからうか。

建築人 6 2012

監修 社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会「建築人」編集部

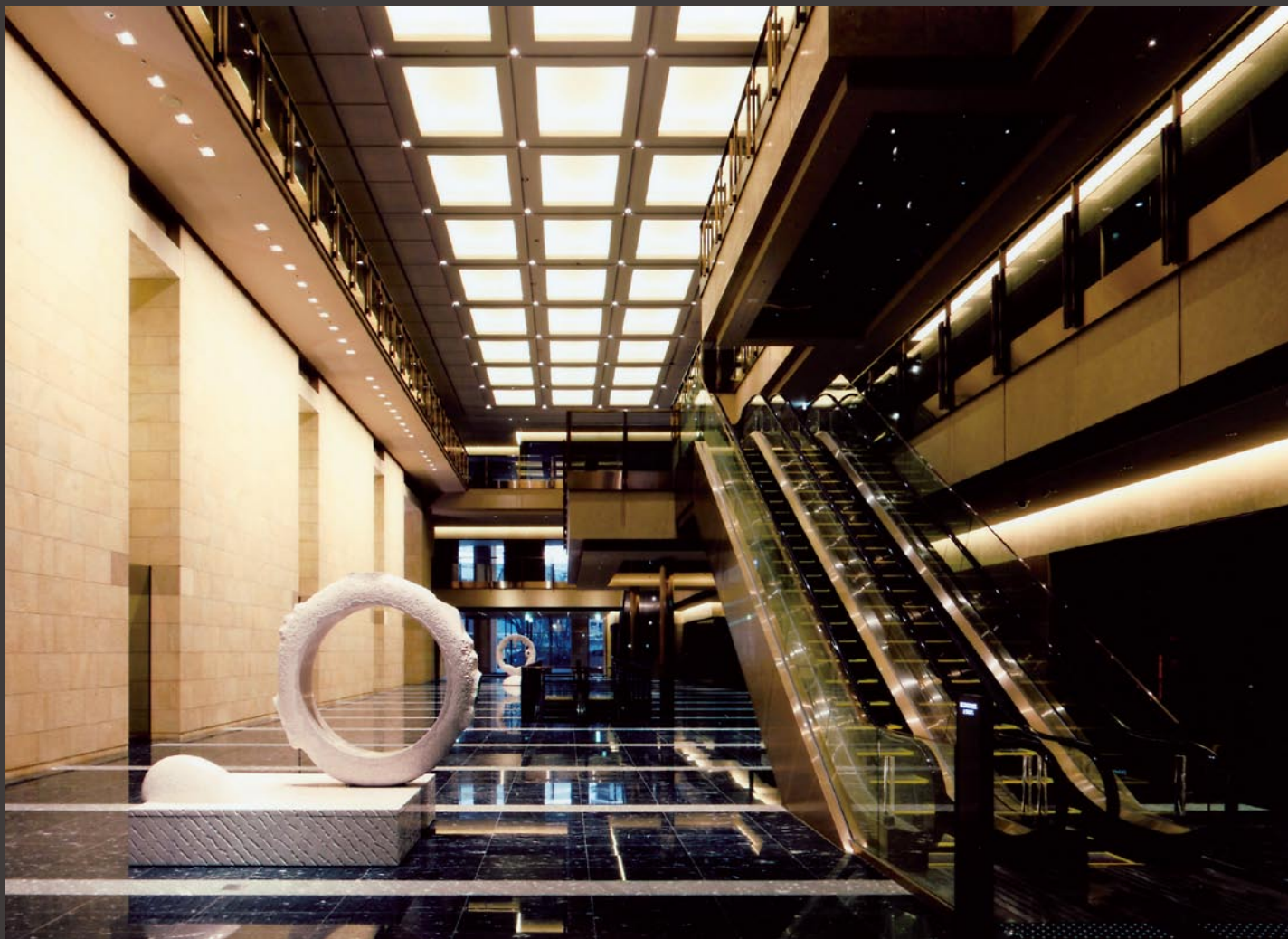
編集人代表 米井 寛

編集人 荒木公樹 筑波幸一郎

橋本頼幸 牧野高尚

事務局 山本茂樹 母倉政美

印刷 中和印刷紙器株式会社



中之島ダイビル 日建設計 川島克也

大阪の中心部、中之島に建つネオロマネスク様式の建築として親しまれてきたダイビル本館建て替えの第一弾となる中之島ダイビルである。

低層部エントランスまわりは、本館デザインのイメージ継承から、柱列・アーキトレーブ・アーチなどのモチーフを組み込み、玄関ロビーへと引き込んでいく。3層吹き抜けの玄関ロビーは、黄竜山石の量塊感ある壁と変化に富んだテラス付回廊と格子天井によって、優しさ、暖かさなど、ダイビルの伝統を継承している。高層のオフィスは、西面を主たる窓面にせざるを得ないという敷地条件から、極限まで細くした鉄骨鉄筋コンクリートのプレキャスト柱構造を採用して、構造体そのものによって西日の遮蔽をはかっている。

プレキャスト柱は建物外周部に独立柱として1.6mピッチに配置し、窓際に柱型の無い80m×15m、約1500㎡のフリーレイアウトなオフィス空間を実現している。

柱と庇とが織りなす彫りの深い高層部の外観は、ダイビルにふさわしい品格を醸し出すとともに、周辺の高層ビル群のなかで強いアイデンティティを表出している。

撮影：エスエス大阪 第31回大阪都市景観建築賞 大阪市長賞受賞作品

■プロフィール

川島克也(かわしま かつや)
1957年 京都府生まれ
1981年 京都大学大学院修了
1981年 株式会社日建設計入社
1997年 同 設計室長
2005年 同 設計部門副代表
兼 設計室長
2008年 同 設計代表
2012年 同 執行役員設計担当

■建物データ

建築主：ダイビル株式会社
設計：株式会社日建設計
施工：鹿島建設株式会社
所在地：大阪市北区中之島3-3-23
用途：事務所・店舗
規模：地下2階・地上35階
構造：S造・SRC造・プレキャストSRC造
敷地面積：20,989.32㎡
建築面積：2,693.04㎡
延床面積：79,543.04㎡
竣工：2009.3.31

